第７講　インド思想と仏教

１　仏教以前のインド思想

①バラモン教

紀元前1000年頃，**アーリヤ人**がインド北部のガンジス川上流に定住。農耕社会を形成し，自然界の諸現象を神格化した多神教を信仰するようになった。やがて祭祀(さいし)や儀式が重視されるようになると，司祭者である**バラモン**は，彼らが生み出した**ヴァルナ**（＝「色」の意味で，のちの**カースト制度**のもと）という厳しい身分秩序の頂点に立ち，さまざまな特権を手にした。これが**バラモン教**の始まりとなった。

※ヴァルナは，バラモン〔司祭者〕・クシャトリヤ〔王族・武士〕・ヴァイシャ〔農民・商工業者〕・シュードラ〔隷属民(れいぞくみん)〕の４つに大別されるが，約3000のジャーティ〔出生〕に細分化もされている。

A　**ウパニシャッド哲学**

紀元前７～６世紀になると，バラモン教の**聖典『ヴェーダ』**に付属する**奥義書(おうぎしょ)『ウパニシャッド』**から哲学が生まれ，インド思想の母体となった。

※ヴェーダは，神々への賛歌(さんか)集である『リグ＝ヴェーダ』など４種に大別される。

B　**輪廻転生(りんねてんしょう)**

全ての命あるものは，いったん死んでも，生きていた時の行為である**業(ごう)〔カルマ〕**を原因に必ず生まれ変わり（＝転生），これを無限に続ける（＝輪廻）。

※現世における行為が積み重なり，来世での形や運命が決定づけられるという考えを，**因果応報(いんがおうほう)**という。

※輪廻転生の思想は，来世でよい報いを受けられるよう善行(ぜんこう)を勧めるプラス面と，前世での業〔カルマ〕により現世が決まっているため努力を否定するマイナス面がある。

C　**解脱(げだつ)**

バラモン教に限らず，のちの**ジャイナ教・仏教・ヒンドゥー教**を含むインド思想においては，輪廻の苦しみから解放され安らぎを得ることを共通に**悟り(さとり)**とする。

※ヒンドゥー教は，バラモン教から発展し，創造神ブラフマー・維持神ヴィシュヌ・破壊神シヴァを三神一体の最高神とする思想を中心に，さまざまな神を崇拝する多神教。

D　**梵我一如**（ぼんがいちにょ）

ウパニシャッド哲学では，宇宙の根源にある不変の原理（＝**ブラフマン・梵**（ぼん））と自己の本質（＝**アートマン・我**（が））は一体，という真理がある。この理解により解脱が可能と考えられたので，**苦行**（くぎょう）や**瞑想**（めいそう）**〔ヨーガ〕**に励むことが重視された。

②ジャイナ教

A　自由思想家の登場

紀元前６世紀以降，商工業が盛んになり，各都市を中心とする小国家の繁栄の中で，バラモンの権威が揺らぎ，クシャトリヤやヴァイシャの新興商人が力をもつようになった。この頃，バラモン教の伝統にとらわれない，独立した自由思想家が次々と現れた。

※彼らはバラモン教の多神や身分の不平等，祭祀中心主義を批判し，『ヴェーダ』の権威を否定した。

B　**ジャイナ教**の成立（前６世紀後半）

開祖の**ヴァルダマーナ〔マハーヴィーラ〕**は，**六師外道**（ろくしげどう）（仏教以外の６派の反バラモン教の思想家６名）の一人。彼は，輪廻からの解脱をめざし，徹底した苦行と無所有に努めるとともに，生き物に対する慈悲の行為として**不殺生**（ふせっしょう）**〔アヒンサー〕**を実践しなければならないと説いた。

２　仏教

①シャカ〔釈迦〕と仏教の成立

A　**ゴータマ＝シッダッタ〔シャカ〕**（前 463 ～前 383 年頃？〔諸説あり〕）

インド北部，シャカ族の小国の王子として生まれる。**四門出遊**（＝城の東門で老人，南門で病人，西門で死人に会い，北門で修行者に導かれる）を経験したとされ，29 歳で出家し修行者となる。その後，６年間苦行を経験したが，それをやめ菩提樹の下でひたすら瞑想を続けたところ，35 歳で悟りを開き**ブッダ〔仏陀〕**となった。かつての修行仲間５人に**初転法輪**と呼ばれる最初の説法をした後は，弟子のアナンダらとインド各地に教えを説いて回り，80 歳で入滅したとされる。

B　仏教の成立

シャカ〔ブッダ〕は，バラモン教の身分制度などを批判し，一切の衆生（＝人間を含む生き物全て）は，**法〔ダルマ〕**と呼ばれる真理の前では，皆平等であるとした。

※また彼は，苦行や禁欲の経験を経て輪廻などの苦悩を生み出す原因である**三毒**（＝貪〔むさぼり〕・瞋〔怒り〕・癡〔愚かさ〕）を断ち切ることを説いた。

〈***Note***〉

②ブッダの教え

A　**縁起**（えんぎ）→全ての存在は**縁**（えん）**あって起こる**もの。

ブッダは，物事には必ず原因（因）や条件（縁），すなわち因縁（いんねん）があり，万物は互いに依存し合い，独立で成り立つものはないと説いた。

※変化しない絶対的なものなど存在せず，全てが変化する相対的なもの。
　それこそが不変の真理＝**「縁起の法」**であるとした。

B　**四法印**（しほういん）→４つの普遍的真理

人生の全ては苦しみにほかならない。その原因は「全てのものは常に変化している」「不変の実体などなく，全ては縁起により成り立っている」ことを知らない（＝**無明**（むみょう））からである。それを知りさえすれば，自己や所有物に対する執着（＝**我執**（がしゅう））などの**煩悩**（ぼんのう）を消し去り，心が何事にもとらわれない**涅槃**（ねはん）**〔ニルヴァーナ〕**の境地に達することができる。

1　**一切皆苦**（いっさいかいく）

この世の全ては苦しみである。

2　**諸行無常**（しょぎょうむじょう）

この世の全ては常に変化している。

3　**諸法無我**（しょほうむが）

不変の自我のような実体はない。

4　**涅槃寂静**（ねはんじゃくじょう）

煩悩が消えて自由で安らかな境地。

C　**四諦**（したい）→４段階の真理

1　**苦諦**（くたい）

人間と世界の根本（こんぽん）の姿は苦しみである。

※**四苦**（＝生老病死（しょうろうびょうし））と**八苦**（＝四苦＋愛別離苦（あいべつりく）・怨憎会苦（おんぞうえく）・求不得苦（ぐふとくく）・五蘊盛苦（ごうんじょうく））

2　**集諦**（じったい）

苦を引き起こす原因として，無知・欲望・執着などの煩悩がある。

3　**滅諦**（めったい）

煩悩を完全に滅することで，平安の境地に達する（＝**解脱**（げだつ））。

4　**道諦**（どうたい）

解脱のためには，快楽にふけることや苦行に専念するという両極端を避け（＝**中道**（ちゅうどう）），正しい修行の道に集中し，実践することが大切である。

D　**八正道（はっしょうどう）**→極端を避けた８つの実践方法

ブッダは，自分は万能の救済者などではなく，真理と修行法を指し示すことができるだけの存在とし，自身を崇拝対象とすることを否定した。４つの真理は，苦しみの中に生きる者が８つの正しい修行法により自ら悟るものと捉えていた。

1　正見（しょうけん）　→正しい見解
2　正思（しょうし）　→正しい思考
3　正語（しょうご）　→正しい言葉
4　正業（しょうぎょう）　→正しい行為
5　正命（しょうみょう）　→正しい生活
6　正精進（しょうしょうじん）→正しい努力
7　正念（しょうねん）　→正しい思念
8　正定（しょうじょう）　→正しい瞑想

③原始仏教から部派仏教へ

A　ブッダ死後の原始仏教

遺言に基づき弟子たちが教えを広めていき，その過程で経典を整理する結集も行った。

※**『法句経〔ダンマパダ〕』『スッタニパータ』**は，現存する最古の経典とされる。

B　**自利**と**利他**

ブッダの教えには，出家して自らの悟りを完成させる面と，**慈悲**の心を基に世俗の中で人々の救済をめざす面とがあった。

※慈悲とは，人間に限らず生命あるもの全てをいつくしみ憐れむ心のこと。

C　出家者と在家信者

出家者は厳しい戒律を守り，僧（男＝比丘，女＝比丘尼）として修業した。在家信者には戒律のうち**五戒**（不殺生・不偸盗・不邪淫・不妄語・不飲酒）のみが課された。そして，**仏**〔ブッダ〕・**法**〔ダルマ〕・**僧**の集団〔サンガ〕を**三宝**として敬いつつ，日常生活を送ることが説かれた。

D　**部派仏教**

紀元前３世紀頃，仏教教団は，ブッダの言行に忠実で保守的な少数派の**上座部**と，ブッダの精神面を重視し進歩的な多数派の**大衆部**に分かれた。そして，それがさらに分裂し，約 20 の部派に分かれていった。

④上座部仏教〔南伝仏教〕

部派仏教のうち**上座部仏教**は，解脱をめざす者は出家して精進すべきとして，出家者のみに悟りの可能性を認めた。彼らは，ブッダが決めたとされる戒律を忠実に守り，**自己の悟りを第一に求めた**。そして，煩悩のない境地に到達した，最高の修行者である**阿羅漢**を理想とした。

※上座部仏教は，南のスリランカ，さらにミャンマーやタイなどの東南アジアに伝わった（＝**南伝仏教**）。

⑤大乗仏教〔北伝仏教〕

A　**大乗仏教**

紀元前1世紀，部派仏教に否定的な集団が，大衆部仏教から発展させたとされる。大乗仏教は，全ての人々の救済を第一にめざす修行者を理想とし，それを**菩薩**と呼んだ。

※「大乗」は大きな乗り物という意味。自己のみの悟りに専念する上座部仏教を「小乗」仏教と批判した。

※大乗仏教は，中央アジアを経て中国・朝鮮・日本に伝わった（＝**北伝仏教**）。

B　**一切衆生悉有仏性**

大乗仏教では，生命あるものは全て仏〔ブッダ〕になる可能性があるとした。

※釈迦如来以外にも，薬師如来・阿弥陀如来・大日如来など複数の仏が存在する。

C　**六波羅蜜**

布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧という，出家者が実践すべき6つの徳目。

D　**中観派**→インドで発生

大乗仏教の思想は，２～３世紀には，『中論』の著者**ナーガールジュナ〔竜樹〕**により**空の思想**として理論化された。

※心や身体など全ての存在は自らというものをもたず（**無自性**），固定的な実体ではないと考えた。

※「空」は「無」ではなく，曇りない知恵の目で真相を見抜くことを意味する。

E　**唯識派**→インドで発生

４～５世紀には，**アサンガ〔無着・無著〕**と『倶舎論』の著者**ヴァスバンドゥ〔世親〕**の兄弟が出た。彼らは，一切の事物は人が認識する心の動き，すなわち**識**が生み出した表象であり，それ以外は実在していないとする**唯識**思想を説いた。

※「唯識」とは，全ての事象・事物は意識の産物にすぎないという意味。

F　その後

中国では中観や唯識といった大乗仏教の教理を完成した。7世紀にはインド・中国の双方からチベットにも伝播して国家の保護を受け（＝**チベット仏教〔ラマ教〕**），さらにモンゴルまで伝わった。

※中国では多くの経典が鳩摩羅什や玄奘〔三蔵法師〕により漢文に翻訳された。

第７講　倫理確認テスト

1　紀元前 1000 年頃，インド北部のガンジス川上流に定住した遊牧民とは？

①　イスラエル人　②　ゲルマン人

③　アーリヤ人　④　モンゴル人

2　バラモン教のウパニシャッド哲学で，宇宙の根源にある不変原理を何といったか？

①　イデア　②　アルケー　③　ブラフマン〔梵〕　④　アートマン〔我〕

3　ジャイナ教の開祖とは？

①　ヴァルダマーナ〔マハーヴィーラ〕　②　ナーガールジュナ〔竜樹〕

③　アサンガ〔無着〕　④　ヴァスバンドゥ〔世親〕

4　シャカの説いた四法印のうち，「煩悩が消えて自由で安らかな境地」とはどれか？

①　一切皆苦　②　諸行無常　③　諸法無我　④　涅槃寂静

5　シャカの説いた四諦のうち，「苦を引き起こす原因として，無知・欲望・執着といった煩悩がある」という真理とはどれか？

①　苦諦　②　集諦　③　滅諦　④　道諦

6　解脱のために両極端を避けることを，仏教用語で何というか？

①　中庸　②　中道　③　無明　④　涅槃

7　現存する最古の仏教経典の一つとされるものは何か？

①　『リグ＝ヴェーダ』　②　『法句経〔ダンマパダ〕』

③　『中論』　④　『倶舎論』

8　上座部仏教で理想とされる，最高の修行者とは？

①　如来　②　菩薩　③　阿羅漢　④　比丘・比丘尼

9　中観派のナーガールジュナ〔竜樹〕により理論化された，大乗仏教思想とは？

①　三毒　②　縁起の法　③　八正道　④　空の思想

10　6世紀，日本に伝わった仏教とは？

①　原始仏教　②　上座部仏教〔南伝仏教〕

③　大乗仏教〔北伝仏教〕　④　チベット仏教

解答

1	③	2	③	3	①	4	④	5	②
6	②	7	②	8	③	9	④	10	③